

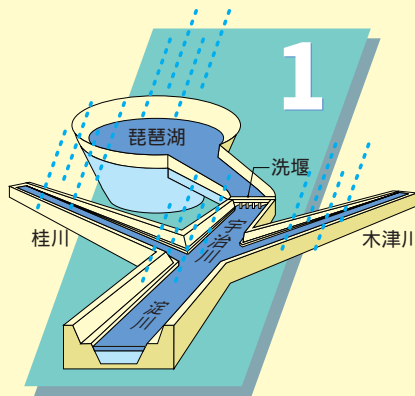
Q 大雨の時でも琵琶湖からの放水によって、淀川の下流ではんらんが起きないのはなぜですか。その仕組みを教えてください。

桑島裕宜さん（大津市）

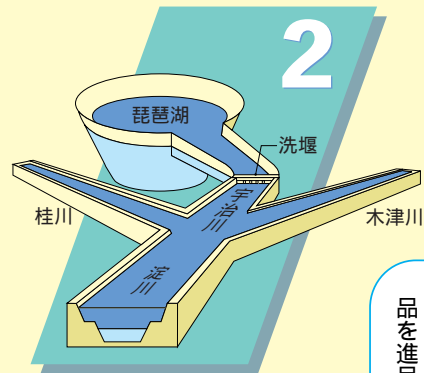
A 淀川本川の洪水は、主に台風による宇治川、木津川、桂川の流量増加で起こります。そこで、淀川の下流で氾濫が起きないように上流の堰やダムでは、連携して放流量の調節を行います。瀬田川洗堰の操作の場合は通常、琵琶湖の水位が最高になるのは、淀川本川の流量がピークをすぎて減りはじめたあとになります。この時間差は約1日。洗堰はこの特徴を利用して、琵琶湖と淀川の両方の水量を調節しながら洪水を防いでいます。



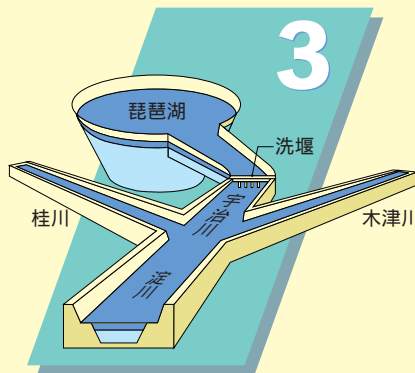
1 琵琶湖の水位はほとんど変わりませんが、下流では木津川・桂川の流量がとくに増加し、淀川の流量がピークを迎えます。このため、洗堰は放流量を制限します。



2 台風などによる大雨が降ると、宇治川・木津川・桂川、そして淀川の水位が上昇し始めますが、琵琶湖の水位はまだ上昇していません。



3 下流では流量が減りはじめます。一方、琵琶湖では水位が上昇しつづけるため、洗堰を開け、琵琶湖の水位を下げます。左のイラスト1～3で表された水位や流量の変化は、約1日の時間差をもって生じます。



水に関するみなさまの質問やご意見・感想をお待ちしています。
「ビワズ通信・Q&Aコーナー」宛までお送りください。採用させていただいた方には記念品を進呈します。